



来場者がまず足を踏み入れる、受付のあるアトリウム。各階にテーマカラーがあり、このフロアは光とマッチする黄色。

フランス大使館

南麻布4丁目、フランス大使館の庁舎が建て替えられて2年半ほど経つ。旧庁舎の解体前に行われた、日仏のアーティストによる「ノーマンズランド」展を記憶している人も多いだろう。今回は新庁舎の建物の内部に入りレポートする。

ゲートをくぐると、鬱蒼とした森の木立に沿うように、木製の長い緩やかなスロープが伸び、建物のエントランスへと誘導される。入ったところは4階までの吹抜けのアトリウム。なんと天井がガラス張りで、青空から空間いっぱい光がふり注ぎ、そのダイナミックな光景に思わず息をのむ。設計は、ADPI(パリ空港公団子会社)のフランス人建築家、ピエール＝ミシェル・デルパッシュ氏、ドミニック・シャヴァンヌ氏をリードアーキテクトとして、竹中工務店などと共同で行われた。

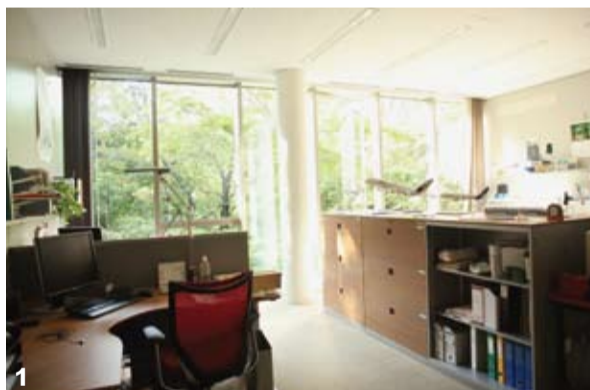
この地の歴史は古い。江戸後期、出羽新庄藩の武家屋敷があり、のちに尾張徳川家に引き継がれる。昭和に入り日本政府が敷地を買い上げ、そして昭和47年、フランス大使館の所有となる。残された広大な庭園を保護し景観を生かすことは、新庁舎建設のコンセプトの一つであった。そのため、建物は庭園に向かった北側をファサード(正面)とし、森をいだけかのようなカーブ状にデザインされている。すべての執務室は森に面して大きく窓がとられ、見えるのは緑ばかりだ。

建物は、ほかにも環境への配慮、エネルギーを極力使わなくてすむ工夫がある。例えば、気密・断熱性の高いLow-Eガラスの採用、緑化屋根や雨水を回収して再利用できるシステムの導入。たくさんのガラス窓は要所が開放でき、スムーズな自然換気を促せる。初夏を思わせる陽気の取材当日も、エアコンがかけられることはなく、森からのそよ風がアトリウムを通じて循環しているような爽やかさを感じた。

みどころは随所に配された、アート作品や調度品にもある。ニコラ・ビュフ、ジャン＝ミッシェル・アルベロラら気鋭のクリエイターによるカラージュや絵画、壁画。大使執務室、VIPの打ち合わせ室にはシャルロット・ペリアンのテーブル、イームズやフィリップ・スタルクの椅子などの名作家具がずらり。屋外のアプローチでは、田原桂一のライティングアートが夕刻になると幻想的な光を発する。実に刺激的だ。

麻布に残る豊かな自然を最大限に生かし、建築に芸術的な香りを融合させたモダンな新庁舎。歴史や伝統を大切にしつつ、新しいデザインへの挑戦を続けていくフランスらしさを感じる建物であった。

(お話・案内をして下さった方: 広報部 参事官 ジュール・イルマンさん、広報部 山田順子さん)



- 1 窓いっぱいの緑が心なごませる執務室。
- 2 踏み板と手摺の連続が美しい階段。いかにもヨーロッパ的なエレガンスを感じる。
- 3 アトリウムの壁面には、ソフトな印象の自然石をミックスしたコンクリート素材を使用。
- 4 ジャン＝ミッシェル・アルベロラの、日本とフランスで採用しているメートル法を題材にした壁画。クリストフ・ピエの椅子は、各階に色違いで置いてある。



*新庁舎建設のために採用された計画は、民間部門との革新的なパートナーシップ方式。フランスは土地の一部をMINTAKコンソーシアム(野村不動産、三井物産、ADPI、竹中工務店、久米設計による事業者チーム)に64年間定期借地し、MINTAKはその地に高級マンションを建設し分譲する。その代価として、MINTAKは新庁舎を設計、建築、整備し、15年間のアフターメンテナンスを請け負う。改修工事も含めてフランスに公費が一切かからないシステムだ。

- 5 屋上の緑化屋根。左が庭園の森で、その奥に大使公邸がある。
- 6 屋外の光のアート 田原桂一による、3種類の照明を組み合わせたライティングアート。(写真提供/川澄建築事務所)
- 7 ガラスの開放的なデザインのゲートも、麻布の風景として馴染んできた。敷地面積は2.5ha、建物の延床面積は8438㎡というスケールの大きさだ。
- 8 庭園の森側から見た建物。北面はすべてガラス張りだ。
- 9 緑の壁に沿った、ダイナミックかつ美しいエントランスへのスロープ



「芝家具」と呼ばれる西洋家具の産地として、芝～三田通りには家具職人が多くいました。麻布飯倉で産声をあげた相田さんの工場もそのひとつ。2代目の清隆さんが亡き父の会社を受け継ぎながら、間伐材を使って日本の森林再生にも取り組んでいます。



麻布びと

未来へ残したい麻布の声



「家具職人の夫と歩んだ50年余 息子が新しい形で引き継ぐ」

相田キヨシさん
清隆さん



亡き父が長年愛用していたカンナは息子の清隆さんが大切に使い続けている。

家具職人の夫を支え、住み込み職人の世話、3人の子どもを育てあげ、あつと言う間の半世紀

5人の職人さんと一緒にスタート 東京での新婚生活

私は栃木出身なんです。主人とは同郷です。東京で家具職人として独立したところだから、是非と勧められました。お見合いして1週間で結婚を決めましたよ。この人となら頑張れるってひらめいたのかしらね。

お嫁にきたのは昭和30年、23歳の時です。東京の右も左も分らないまま、主人が経営する作業所兼住居に来てみてびっくり！住み込みの職人さんが5人、寝起きを共にしてるんです。翌日から私たち夫婦と5人、合わせて7人分の食事作りですよ。どうしましょう、なんて立ち止まっている暇なんかありません。大きな釜で毎食米2升を炊きました。今とちがって、できあがった惣菜なんぞありませんから、全て1からの手作りです。



朝食が終わったら、早々に主人たちは仕事にとりかかり、私はひと息する間もなく、昼ご飯の用意です。そして、仕事が終わると皆はいっせいに銭湯へ。その間に夕食の準備。掃除、洗濯、買い出し…とにかく甘い新婚生活などは、まったくなかったですよ。

当時の作業所は、現在と同じ東麻布1丁目です。昭和30年代は「麻布飯倉町5丁目」でした。最近の方は『いいくら』とおっしゃる方が多いのですが、正しくは『いいぐら』とよぶんですよ。桜田通りがすぐそこだったので、どこへ行くのにも便利でしたね。三田通り沿いは神谷町方面、札の辻方面を結ぶ都電が走っていましたが、私はもっぱら自転車を愛用。銀座までも自転車でしたね。シャレたハイヒールなんて、履いたことはありません。草履履きのふだん着でどこへでも出かけてましたよ(笑)。麻布十番も近いのでよく行きました。ふだんの買物は麻布森元町の商店街を利用していました。当時は八百屋、肉屋、魚屋などが軒を連ねていて、結構な賑わいでした。今はちょっとさびれてしまい、残念です。

主人が、ここを仕事場に選んだ詳しいいきさつは、亡くなってしまったので、分かりません。家具職人の修行を経て、仲間と共同経営を始めて、それも順調でした。お互いに独立したところで、私が嫁に入ったわけです。

結婚後、高度成長期に乗かって、仕事は相変わらず多忙でした。ちょうど桜田通りを隔てた芝公園では、東京タワーの建設が始まり、少しずつ高くなっていくのを見ながら、わくわくしていましたよ。住み込みの職人も、結婚や独立などで少しは減りました。ところが、今度は子育てと、主人の仕事の手伝いもしてましたから、忙しさは変わりません。食事の用意をした後は、職人さんのお給料の計算、銀行の使いなどでね。ただ、そんな忙しさを私なりに楽しんでいました。



実家が呉服店を営んでいて、兄弟も多かったので、学校卒業後は家族や従業員の食事の支度などをしていました。そういう経験をふまえて結婚したので、すんなりと大人数の食事の用意をすることができたと思いますね。職人さん一人ひとりが、親御さんからお預かりしている、大切なお子さんですもの。東京に来たら、親方である主人が師匠であり、父親。だから、私はお母さん。しっかり仕事ができるようになって、必死でした。そんなこともあり、私たち夫婦喧嘩したことないんですよ。寝食共にして仕事をしていますから、仕事になったら、親分らしく振る舞わなければいけません。奥さんと喧嘩するのを見られたら、主人も仕事がしづらいでしょ。それより、家にいるのが少なかったので、喧嘩する間もなかったですよ(笑)。

ご主人、功さんの仕事は椅子、テーブルなど家庭用の家具から、家や店づくり、内装工事など多岐にわたっていた。やがて、作業場が狭くなり、江東区に工場を建設。事務員も雇うようになった。現在、息子の清隆さんが、自分の会社を立ち上げ、亡き父上の家具製作、内装などを新しい形で受け継いでいる。

古い家具を丁寧に修理、間伐材を使い、日本の森林再生に取り組む、新しい形での起業 清隆さんも話しに加わっていた。

僕は父から仕事を受け継げと、一言も言われたことがないんですよ。物心ついた時から、職人さんが遊び相手であり、お兄さんでした。言ってみれば、遊び道具も端切れの木や、カンナから出た木屑でした。工場生産とは別に、手作り家具の注文もありましたから、職人さんの作業姿を間近に見ながら育ちました。

昭和42年生まれの清隆さんは、2004年廃校になった飯倉小学校の出身。麻布森元町のお店の子ども達も多く通っていた。同級生では、辛うじて数名、商売を継いで、この地に残っている。お嫁に行った女子達も実家に帰ってくると、いまだに〇〇ちゃんと呼び合うそう。

子どもの頃の遊び場は、何と言っても芝公園。東京タワーも完成していて、周囲はとても賑やかでした。

大学では建築デザインを学びました。最終的に家業を継ぐのだろうと、なんとなく気持ちは固まってました。であれば、最初はちがう業界を覗いてみよう、金融業界に就職。その後、知人の紹介で、ロンドンで居酒屋の内装を含めて、立ち上げの手伝いを担当、暫く日本を離れました。海外での経験が、家具の製作と同時に、内装に非常に興味を持つことになりました。

帰国後、父や職人さんから手ほどきを受けながら、家具製作の自分の会社を立ち上げました。ある時は父とコラボ、ある時は自分たちで、というスタンスでこの仕事に関わるようになりました。

父が他界してから、熟練した技術が光る手作り家具の素晴らしさに、改めて感服します。であれば、この質の高い手作り家具の修理を引き受けてみようと思い、始めております。リフォームや特注家具にも、すぐ対応できるのが自慢です。

今、私が取り組んでいるのは間伐材を使った家具などの製造販売です。間伐材を消費するのも、日本人の使命だと思っています。創立50年を迎え、自分なりにさらにステップアップしていこうと思います。



2代目の清隆さんは、家具製作に取り組んで20年余。木を読み、切り方、削り方は父や職人さんから手ほどきを受けた。今は間伐材の特質を活かす家具作りなどに力を注ぐ。

作業場の片隅には、ショールームもオープンさせている。

(取材/折戸桂子、高柳由紀子 文/高柳由紀子)



Start



六本木7丁目の路地裏を歩く

六本木交差点から国立新美術館にかけての六本木7丁目には、ちいばす赤坂ルートの停留所が5つもあるのをご存知でしょうか？今日は途中下車をして、六本木7丁目の路地裏を散策してみましょう。

スタート地点は、明治屋六本木ストア前の「六本木七丁目南」停留所①。六本木通りから北上すると左手に、コンクリート3階建ての出雲大社東京分祠②が見えます。1889年に建立、1980年、近隣の再開発に伴い現在のビル神殿に改築されました。

六本木通りに平行する小路を進むと、重厚な塀に囲まれた六本木西公園③が現れます。「六本木駅前」停留所④の北側にある正面の冠(かぶき)門をくぐると、都会の真ん中とは思えない静謐な日本庭園が広がります④⑤。

「六本木交差点北」停留所⑥のある外苑東通りから龍土町美術館通りに入ります⑥。天祖神社(龍土神明宮)境内の満福稲荷社⑦には港七福神のひとつ「福祿寿」が祀られています。近くにある桜の古木⑧は、隠れた花見の名所です。

星条旗通りに通じる階段⑨は、「明治の道」と「江戸の道」をつなぐタイムトンネルです。テレビ番組でも紹介されました。階段を上るとすぐ左手が国立新美術館と政策研究大学院大学です。

外苑東通りに戻りミッドタウンの向かいにあるのが「六本木七丁目」停留所⑩、逆に乃木坂方向に進めば、町内で5つめの停留所「乃木坂駅前郵便局」⑪に到達します。

六本木7丁目にある5つのバス停を回る小さな冒険でした。



Goal



(取材/石山恒子、出石供子 文/出石供子)



(株)ワイズ・インフィニティ代表取締役 翻訳家 山下奈々子さん

世の中にはいろいろな仕事があります
映像翻訳家

子どもに生きていく力を

KIDS! ハローワーク

親子で読んでみよう

「国語」ができる人が向いています

今回のテーマは映像翻訳家のお仕事です。港区立高陵中学校2年生3名が、映像翻訳家を経て翻訳会社を営んでいる山下奈々子さんにお話をうかがいました。

◎ どんなお仕事ですか？

外国語の動画に、わかりやすい日本語の翻訳をつけていく仕事です。仕事内容はTV局関係のもの、DVDやドラマ関係のものに分けられます。まずTV局関係ではインタビューを訳すなど、台本がないもので、一方、DVDやドラマ関係は台本原稿があり、それを1秒間に4文字という限られた文字数に訳し字幕にするものです。今は世界同時発売のDVDが多く、共通の文字を持たない日本語への翻訳は他の言語に比較して、より手間や時間がかかってしまっても大変です。納期が迫っている時は、徹夜覚悟のがんばりが必要です。

◎ 映像翻訳家になったきっかけは？

映画は映画館で、もしくはテレビのロードショーで見るのが一般的であった時代から、ビデオの時代に突入した時期がありました。海外からビデオを輸入し、字幕をつけて売る会社に誘われた形で翻訳の世界に入りました。その時にそこで「やってみよう」と決断したことが大事であり、今につながっていると思います。

◎ どうしたらなれますか？

まず学生の場合は、外国語だけでなく、全ての教科の勉強が主になります。その次のステップとして、「エンタメ」系の翻訳という業界の場合、「雑学」というのがあるかないかで差がつきます。雑学がなぜ必要かというと、翻訳の仕事というのは様々な番組の字幕を作成するため、専門的な番組や映画の依頼が来た時に雑学がないと、「これはどういう意味だ」と自分でわからず、翻訳にとりかかれなからずです。全ての知識を



「かたち」になった翻訳作品の数々

字幕制作のソフトをPC上で見せてもらって、説明を受けました。

覚えておく必要はありません。必要に応じて「調べられる力」、どこで何を調べればいいのか「アタリをつける力」といったことが大事です。

◎ どんな人が向いていますか？

翻訳するということは、「わかりやすい日本語に変える」ということです。つまりこの仕事は、英語だけでなく国語ができるということがとても大切です。ですから国語が得意な人が向いているといえます。他には、専門用語を調べる力、細かいところに気付く人であることも必要です。映画によっては医療関係などの専門用語が出てきます。理科も社会も必要ということです。

◎ 仕事を通して嬉しかったこと、大変だったことを教えてください。

翻訳したものが商品化されて自分の名前や企業名が載った時は嬉しかったです。形になったものを頑張った証として家族に見せ、一緒に喜んでくれたりするのうれしいです。

大変なのは翻訳していて思い通りの言葉が出てこない時、書いてしまった言葉に後からこう訳せばよかったと後悔した時などです。立ち直る方法としては、クヨクヨしないことです。もちろん最後の最後まで見直す熱意も大事ですけどね。

(取材/内野稜山、江原響介、福岡央翔 取材サポート/大村公美子)



「英語は好き?」、「趣味は何?」、初めのうちは山下さんに逆インタビューされ照れていた編集員たちでしたが、やがて真剣な表情で取材に集中。



リトアニア共和国
 面積： 6.5万平方キロメートル
 人口： 319.9万人(2012年1月現在)(リトアニア統計局)
 首都： ビリニュス(人口約54万2900人)
 言語： リトアニア語
 宗教： 主にカトリック
 政体： 共和制
 元首： ダリア・グリボウスカイト大統領(2009年7月就任)
 議会： 一院制(議席数141、任期4年)
 外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/lithuania/data.html>より

アルベルタス・アルギルダス・ダンブラウスカス 臨時代理大使
 取材協力/リトアニア大使館



大使を訪ねて 19
 麻布の"世界"から

Lithuania



- 1 バルト海とクルシュ・ラグーンを細長く横切るように分かつ全長98キロの砂州。ヨーロッパからの観光客に人気の世界遺産。
- 2 琥珀の産地としても有名。写真のような美しい首飾りなど装飾品加工も盛ん。海港都市クワイペダは日本唯一の琥珀産地で流通も請負っている岩手県久慈市と姉妹都市関係を結んでいる。
- 3 リトアニアの特産品である麻素材のランチョンマットやテーブルクロス。
- 4 リトアニア特産のハチミツ酒。アルコール度は50%。
- 5 カウナスにある杉原ハウス(記念館)

世界遺産の砂州と琥珀の海岸 リトアニア

リトアニアはバルト三国のひとつでバルト海の東に面し、ポーランド、ベラルーシ、ラトヴィア、ロシアに囲まれている。2011年には日本との外交関係開設20周年を迎えた。リトアニア大使館は1999年に開設され、元麻布の閑静な住宅街の中に立つ。リトアニアの著名な画家、チュルリョーニスの絵や、リトアニア初の女性元首であるグリボウスカイト大統領の写真が飾られたお部屋で、経済学博士のダンブラウスカス臨時代理大使が迎えてくださった。臨時代理大使はエストニア、ギリシャ、ニューヨーク赴任を経て、昨年11月に前任地のインドから着任された。戦前に遡るリトアニアと日本との外交関係をはじめ、リトアニアの歴史・文化・経済・世界遺産や伝統的な料理など、幅広く意欲的に語られた。

リトアニアと聞いて私たち日本人になじみ深いのは、日本のシンドララーとしてユダヤ系難民救済で知られる第二次世界大戦中の在リトアニア日本領事館の杉原知敬副領事。彼の功績を記念して、カウナスには記念館そしてビリニュスには桜を記念樹として植えられた公園もあるという。日本への関心も高いようで、ことに日本庭園への人気はリトアニアの壮大で美しい自然と関係があると言えよう。リトアニアには大小あわせて3000ほども湖があり、世界遺産に登録されているクルシュ砂州はその魅力的な地形からリゾート地としても人気で、ヨーロッパ各地から観光客が訪れる。



リトアニアの食文化はヨーロッパの影響を強く受けている。小さな国だがビールは200種以上。最もポピュラーな料理は「ツェッペリナイ」。ドイツ語のツェッペリンと同様「飛行機」を意味している。すりおろしたジャガイモに、挽肉、野菜をカテージチーズで丸め込み、3時間以上かけて作る代表的な家庭料理で、出来上がりが飛行機の形に似ているところからこの名がある。結婚式やお祝い事に欠かせないスイーツが「シャコティス」。棒に生地を巻き付けながら特別なオーブンで焼いていくお菓子で、バームクーヘンのルーツという説もある。生地を足しながら焼くと、表面が何箇所も枝のように突出して、出来上がりはとても不思議な形だ。

スラリと背の高い臨時代理大使のご趣味はリトアニアで一番人気のあるスポーツ、バスケットボール。リトアニアのチームは3度もヨーロッパのチャンピオンの栄冠をつかんだそうで、日本のバスケットボールのチームも交流試合でリトアニアを訪れている。着任されてからまだ半年あまりの臨時代理大使の目下の休日の楽しみは、大使館周辺や都内の散策で、六本木ヒルズへも出かけられるとのこと。もしかしたら、週末には麻布のご近所でお会いできるかもしれない。

(取材・文/大澤佳枝、高柳由紀子、加藤智恵)

Azabu Cool

麻布地区在住、在学、または在勤の外国人の方々に登場いただき、日本の印象をお聞きます。今回は、政策研究大学院大学(六本木7丁目)で公共政策プログラム修士課程に在籍しているロッタ パスカルさん(26才・スイス出身)にお話をうかがいました。



好きな漢字を、とリクエストしたところ、あえてお気に入りの「KY」を清書してくれたパスカルさん



2004年、和歌山県にホームステイ中にホストファミリーのみなさんと

来日のきっかけを教えてください。

実は今回が3度目の来日になります。

きっかけは10歳の頃、ポケモンやドラゴンボールといったアニメを通じて日本という国の存在を知ったことでした。中でも大きく影響を受けたのがエヴァンゲリオンです。

初来日したのは2004年、17歳の時です。交換留学生プログラムを利用して和歌山県の農家にホームステイし、地元の県立橋本高校に1年間通いました。

帰国後は大学で哲学と歴史を学び、卒業後はインターンシップ制度で再び来日し、2009年から1年間港区役所と管内の支所でお世話になりました。3度目の来日となる今回在籍している政策研究大学院大学のことは港区でインターンシップ参加中に知りました。

日本の文化で一番興味があるのは何ですか。

マンガです。日本のマンガの良さは、描写の細やかさにあると思います。ヒーローが悪役を倒して終わり、という単純な筋書きにとどまらず、登場人物の個性や入り組んだ人間関係まで細かく表現されています。そのため読者層が幅広く、大人でも十分に共感できる醍醐味があると思います。

日本での食事はいかがですか。

納豆と梅干、たこ以外はなんでも食べます。丼物や餃子、お好み焼きも好きです。和歌山県にホームステイしていた家族から贈られた炊飯器でご飯も炊いています。日本にはあらゆる種類のレストランがあり、価格帯も幅が広いので、食事に関して困ったことはありません。



「GRIPSフォーラム」と称する一般公開講演会を月に1、2回開いている。7月は2日(月)、9日(月)。詳しくは本学のページで。<http://www.grips.ac.jp>

帰国の際には家族や友人にどんなお土産を買いますか。

お箸や、緑茶、バスローブ代わりに浴衣を贈ったりします。お土産ではありませんが、僕自身、畳が大好きなのでスイスの家では部屋の中に畳を置き、布団を敷いて寝ています。

スイスと日本での生活の違いに戸惑うことはありましたか。

特にはありませんが、やはり日本語を理解することが快適な生活を送るための鍵だと思います。たとえば僕が気に入っている日本語のひとつは「KY(空気を読めない)」という俗語。インターンシップでお世話になった港区役所の同僚が教えてくれました。まずはこの短縮形の言い方が面白い。また、この言葉に象徴されるように日本人のコミュニケーションには言葉で表現されない意図がたくさん隠されています。だからこそそれを理解できるようになって初めて日本という国を理解し、自分の中に取り込むことができるのだと思います。

パスカルさんは政策研究大学院大学での1年間のプログラムで修士号を取得した後はスイスの大学院に戻って同じく公共政策の分野で博士号を取得する予定です。

(取材・文/大村公美子、福本綾子)

地域社会のゆくえ

7

わがまちをみずから守る消防団

～地域防災の要として団員を募集しています～



可搬ポンプ操法訓練



消防団ポンプ操法大会

消防団って消防署とどこが違うのだろう。そんな素朴な疑問を持ちながら、麻布消防署を訪問しました。

「消防団は、地域にお住まいの方やお仕事で勤務されている方で構成され、災害等に消防署と一体となって活動する組織で、18歳から入団できます。麻布消防団は、団本部と4つの分団があり、女性14名を含む114名が活動をしています。消防団員として活動するため、年間を通じて訓練を行い、消防団ポンプ操法大会などで日頃の訓練成果を競い合っています。大会前は週に平均2～3回訓練をする時もあり、皆さん一生懸命取り組んでいます。」との消防署担当者のお話でした。

また、区民の皆様にも消防団の活動をもっと良く知ってもらおうとともに、若い人たちが入団してくれることも望んでいらっしゃいました。【消防団に関する問合せは、麻布消防署内にある麻布消防団本部(03-3470-0119)へ】

初めて見た可搬ポンプ操法訓練

麻布消防団に4つある分団の中で、第2分団の訓練を見学しました。訓練は主に都立中央図書館の駐車場をお借りして行っています。見学当日は、夜の7時から10時まで、皆さん真剣に訓練をし、そこで、消防団が使っている「可搬ポンプ」について教えていただきました。

「可搬ポンプ」とは、火災を消火するために放水する機械です。消防署の消防車が入れない狭い道を通れるので小回りが利き、大きな災害が発生し消火栓が使えなくなった場合、池や川から水を吸い上げることも出来ます。

見学した訓練は、消火活動を想定したポンプ操法で、チームワークの取れたきびきびした迅速な動きが要求されるそうです。

また、同時に新入団員に対して様々な訓練指導が行われていましたが、その中に年代や経験を超えた心のコミュニケーションがあるように感じました。

分団長の福沢豊治さんにお話を伺いました。

「消防団の活動は、様々な災害に対する活動以外に、火災予防の警戒や広報、町会・自治会が行う防災訓練・救命講習の指導等多岐にわたっています。

これらの防災訓練等を通じて、消防団の活

動に興味を持っていただき、消防団へ入団される方が増えれば良いと思っています。」と教えてくださいました。

消防少年団の活動

消防少年団は、少年少女の健全な育成のため、消防の仕事や火災予防に関心のある小学生・中学生で結成され、高齢者の家庭を訪問する等の活動をしています。

麻布消防団について取材していく中で、麻布消防少年団の入卒団進級式も見学させてもらうことができました。武井港区長をはじめ、来賓、保護者の方々が見守るなか、厳かに執り行われ、入団、卒団するお子さんたちがそれぞれ輝いていました。

式が終了した後、保護者の方々に「お子様を消防少年団に入団させて良かったことは？」とお聞きしたところ、「防火防災に関する様々な事を学べたこと。地域の方々と触れ合い、励ましを受けたこと。そして昨年3月11日の地震の時、子どもが落ち着いて行動できたこと。なにより子どもがいろいろな活動に参加して、満足している様子を見た時に良かったと思いました。」等のお答えが返ってきました。

麻布消防少年団の団長、田中芳信さんは「この子どもたちが、将来、防火防災の担い手になってほしいと思っています。」と話されていました。

麻布地区を守る消防団の活動にこれからも関心を持ち続けていきます。

(取材/高柳由紀子、折戸桂子 文/折戸桂子)



麻布三河台町 自邸外観

港区立郷土資料館所蔵

英国から来た建築家 ジョサイア・コンドル

Josiah Conder



晩英(コンデル)筆「鯉之図」
河鍋暎斎記念美術館所蔵

明治時代に工部大学校(現東京大学)で造家学(建築学)を教え、多くの名建築を設計した。晩年に現在の六本木4丁目(三河台公園からミッド・タウンへの道の途中)に自邸を建てて過ごし、日本の芸術を愛し日本に骨を埋めた英国人の物語である。

政府備外国人教授

明治10年1月(1877)、鉱山学、電信学(電気工学)、造家学(建築学)などを教える工部省工部大学校は工学寮を改称して始まった。

その工部大学校造家学教師(教授)として英国人ジョサイア・コンドル(1852-1920)は、月給333円余、5年契約で同年1月に来日し、「工部省備教師館御用地」として引渡し済の麻布今井町22番地(現六本木2-1)に入居している。

コンドルは16歳からロンドンの有名建築家事務所2ヶ所で学び、建築家に必要な工学と美術をロンドン大学の美術講座などで勉強し、若手建築家の登竜門イギリス建築家協会のソーン賞を受賞している。文久2年(1862)に第2回ロンドン万博があって、ジャポニスムの影響を周りから受けたコンドルは、日本の絵などを集めていた様で、それが日本行の切っ掛けになったのかもしれない。コンドルは水彩画を描き、写生を好み、残されたスケッチ帳にも赴任途中のフランス、イタリア、さらに日本に来てからの日光、箱根、名古屋、京都、高野山、広島、下関などの建物が描いてあった。

鹿鳴館などの名建築と自邸

コンドルは講義録「造家必携」の中で建築には人間の健康、安全、快楽を保つために技術とヒューマニティが必要であると説き、工部大学校で「建築家」という専門職の育成に努めた。温厚で心の優しい性格で学生に慕われている。

建築は、鹿鳴館、東京帝国大学講堂、駿河台ニコライ堂、東京タワー近くの飯倉教会(聖アンドレー教会・戦中に焼失)、三田に現存する三井倶楽部、最近復元された三菱一号館など60件を超える設計をしている。建築様式はロマネスク、ルネッサンス、イスラム風、バロックなど多岐にわたり、世界の建築様式を日本の建築家に示した。先駆けて地震に配慮し、煉瓦に鉄帯を巻くなどの対策をし、三菱一号館の建築に生かされている。工部大学校教師、東京帝国大学建築学科講師、内務省名誉顧問などを経て邸宅建築家として名をはせ、工学博士、勲三等瑞宝章を賜っている。

明治37年(1904)にコンドルが建築した自邸は麻布三河台町25番地(現六本木4-3)で約882坪あり、1階煉瓦造、2階木造建、洋館と和館の混合造である。家は二つの翼で構成され、庭にバラが植わり、コンドルが設計や仕事をするチューダー様式の書斎兼製図室の洋館と妻くめの好みに合わせた和館で設計されている。

明治26年(1893)に前波くめ(1856-1920)と結婚、くめの姉の子ヤエを養女とし、その直前にコンドルは自分の生き別れた実子ハル(ヘレン・アイコ 明治13年(1880)生)を妻くめの養女として引き取っている。ハルは明治34年(1901)にベルギーに留学、明治39年(1906)にスウェーデン人と結婚した。その時、51歳を超えたコンドルと47歳のくめは娘たちの事を考え、老後に備え、さらに英国法にヒントを得た記録が自邸の土地登記簿本に残っている。明治35年(1902)にハルの名前前でその土地を買い、ハルが結婚する明治39年6月に、ハルが帰れる家とハルの持参金にしたかったのか、コンドルは自邸の建物や庭のバラなどのために存続期間999年(ほぼ10世紀)の地上権を設定し、その地代6,000円をハルに払っている。同時に7月にヤエに家督相続をして土地の所有権を移した。

参考文献

東京大学百年史編集委員会編 東京大学百年史 東京大学
河東 義之編 ジョサイア・コンドル建築図面集 III 中央公論美術出版
東京都編集 東京市史稿市街篇 第59
畠山 けんじ著 鹿鳴館を創った男 河出書房新社
藤森 照信著 コンドルと暎斎の交遊 研究誌「暎斎」第22号所収
稲垣 栄三著 ジョサイア・コンドルのスケッチブック 稲垣栄三著作集6
近代建築史研究 中央公論美術出版
建築学会 建築雑誌406号
ジョサイア・コンドル口述 松田 周次・曾瀬達蔵筆記 造家必携 完
明治文化全集補巻3所収 日本評論社
建築学会 建築雑誌402号 403号
古林 亀太郎編 現代人名辞典 大正元年 明治人名辞典下巻 日本図書センター 復刻
鈴木 博之・藤森 照信・原 徳三監修
鹿鳴館の建築家 ジョサイア・コンドル展 図録 建築画報社
小野木 重勝著 コンドル夫人について
日本建築学会大会学術講演梗概集所収 昭和50年10月

大正9年(1920)6月に妻くめとコンドルは相次いで亡くなった。8月にヘレン・アイコ・グルート(ハル)は地上権を相続したが、翌年9月に放棄しコンドルの身の回りの遺品を相続して日本を去った。土地は前波章三(ヤエの弟)が相続した。後にヘレン・アイコは工部美術学校教授ヴィンチェンツォ・ラゲルサ作塑造「くめコンドル像」をコペンハーゲン国立博物館に、スケッチ帳を東京大学に寄贈している。

日英の文化・芸術交流

コンドルは英国王立建築家協会に「日本建築ノート」「寺院建築」「日本住宅」などについて論文を提出し、五重塔の心柱について建築的見解を述べ論争をしている。

他方、コンドルは来日するとすぐに日本アジア協会のメンバーになり、明治13年に伝統的衣装と甲冑について「日本衣裳史」、明治19年(1886)に「日本風景庭園の芸術」、明治32年(1899)にはコンドルの執事高橋道保を発行人にして「日本の花の芸術」を刊行し、日本の芸術に深い関心を寄せている。

明治14年(1881)にコンドルは画家河鍋暎斎に出会った。暎斎は狩野派に学び、奇想を持ち、表現の極限に挑んだ絵師で、今井町の家でコンドルに日本画を教えている。暎斎は英国人の弟子を「コンデル」とか「コンテール」君と親しく呼び、1回3円ほどで出稽古し、コンドルは画号「暎英」をいただき、日本画を描いている。



暎斎筆「暎斎絵日記 乾」明治18年2月7日(部分)
(財)河鍋暎斎記念美術館

コンドルと暎斎は美にまつわる深い絆で生涯にわたり結ばれ、明治22年(1889) 暎斎の最期を暎斎の家族と共にみとった。明治44年(1911)にコンドルは西洋絵画と比較しながら 暎斎画の手や足の細部のゆるぎない表現と線の美しさについて「Paintings & Studies by Kawanabe Kyōsai」という著書を出している。曾孫の河鍋楠美氏は美術館を創り、コンドルと暎斎との関係を後世に伝えようとしている。

日本で43年余を過ごしたコンドルの葬儀は自分が設計した聖アンドレー教会にて執り行われた。お墓は護国寺に在り、河鍋暎斎記念美術館と東京大学建築学科OBの木葉会が65回忌に追悼法要をした。

文中敬称省略

古田 亮・寺地 亜衣・吉田 朝子編 明治の彫塑 ラゲルサと萩原礫山 図録
東京芸術大学大学美術館
河鍋 楠美編 暎斎絵日記の中のコンデル 暎斎記念美術館
鈴木 博之著 ジョサイア・コンドルの建築観と日本
日本建築の特質所収 中央公論美術出版
安村 敏信監修 別冊太陽 河鍋暎斎 平凡社
ジョサイア・コンドル著 山口静一訳 河鍋暎斎 岩波文庫
J・CONDER Paintings & Studies by Kawanabe Kyōsai The Maruzen
復刻版 河鍋暎斎記念美術館

取材協力
公益財団法人 河鍋暎斎記念美術館 河鍋 楠美館長
国立小山高専 工学博士 河東 義之名誉教授
(株)ダニエル 高橋 保一社長

(取材/大澤佳枝、出石供子、浅川一枝、森 明 文/森 明)

※前号の麻布の軌跡「参考文献」中誤字があり、武藤藤二著は「世紀転換期のアメリカ文学と文化」でした。お詫びして訂正します。

六本木暫定自転車駐車が平成24年3月オープンしました！ あわせて自転車放置禁止区域を指定しています

六本木暫定自転車駐車が平成24年3月にオープンしました。ぜひご利用ください。

また、暫定自転車駐車の開設に併せて、自転車放置禁止区域を指定しています。

自転車放置禁止区域内に放置されている自転車は即時撤去の対象になります。

六本木暫定自転車駐車の内容

名称	収容台数	利用方法	利用料金	利用時間
第1暫定自転車駐車場	88台 (自転車のみ)	定期利用のみ	一般: 1,800円/月 学生: 1,300円/月	午前4時45分 から翌日午前 1時15分
第2暫定自転車駐車場	209台 (自転車のみ)	時間利用のみ	最初の2時間 無料、以降8 時間毎100円	24時間
第3暫定自転車駐車場	52台 (自転車のみ)	時間利用のみ	最初の2時間 無料、以降6 時間毎100円	24時間

※定期利用について(要事前申込)
申込先:サイカパーキング(株) 電話3667-4978(日曜・祝日を除く午前9時~午後5時)
サイカパーキング(株)のホームページからお申し込みいただけます。
<http://www.cyca.co.jp>

自転車は、手軽で安全な乗り物ですが、歩道に放置されていると歩行者の安全な通行の障害となり、けがや事故につながる危険性があります。また、災害時には避難・救助活動の妨げにもなります。

六本木地域の放置自転車をなくし、安全安心で快適な歩行環境を作るよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



お問合せ / 麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話 / 03-5114-8802

みなとタバコルールにご協力ください 児童遊園・遊び場は、全面禁煙です。 また、道路、公園等屋外の公共の場では、 指定喫煙場所以外での喫煙を禁止します

「みなとタバコルール」とは

区内全域の道路、公園など屋外の公共の場所での受動喫煙防止と環境美化をめざすものです。

これまで、道路上における喫煙を対象としてきましたが、平成23年4月1日から、公園、児童遊園など一般の人が自由に通行、出入りできる屋外の公共の場所全てについてルールの対象としています。

ルールの内容

- (1) タバコを吸わない人の健康に配慮します
- (2) 指定喫煙場所以外での喫煙をしません
- (3) 吸い殻のポイ捨てをしません



キャンペーンのイメージキャラクター「タバコのおばけ「タバコバケ」」

「みなとタバコルール」の活動

- 啓発キャンペーン
区民・事業者等の地域の皆さんと協働・連携し、各地区において「みなとタバコルール」の啓発と環境美化のキャンペーン活動を実施しています。
- 路上などでのPR
駅周辺などを中心に、路上・歩行喫煙の禁止についての路面シールを設置しています。
また、ポスターや街頭ビジョンなどでの啓発活動も行っています。
- 巡回指導・啓発
区内各地区において、「みなとタバコルール」のシンボルマークを身に着けた指導啓発員が、路上・歩行喫煙者への指導・啓発を行うとともに、「みなとタバコルール」を区民だけでなく、区外からの通勤・通学者等の来街者にも浸透させるための巡回を行っています。
区では今後も受動喫煙の防止と環境美化のため、「みなとタバコルール」による取組を推進していきますので、協力をお願いします。

お問合せ / 麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話 / 03-5114-8802

読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてもらいたい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント！
「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。
●電話で.....03-5114-8812(月~金/午前8:30~午後5:00) ●ファックスで.....03-3583-3782
●郵送で.....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



港区麻布地区 総合支所だより

総合支所からの お知らせ

子育て座談会

「赤ちゃんがいる暮らし
～みんなの育児はどう?～」

育児でお困りのことについて、参加者と講師が気軽に話しながら、みんなでほっとできる座談会です。

- 対象** 麻布地区在住の1歳半までの親子
- ①日時** 平成24年7月24日(火)
午後1時30分～3時
- 内容** 「他の子どもとの関わりかた」
- 申込み** 電話で7月2日(月)から7月17日(火)までに下記お問合せ先へ
- ②日時** 平成24年9月25日(火)
午後1時30分～3時
- 内容** 「こどもの叱りかた」
- 申込み** 電話で9月3日(月)から9月18日(火)までに下記お問合せ先へ
- 場所** 麻布区民センター 2F
- 募集人数** 10組(保育つき)
- 費用** 無料

お問合せ／
麻布地区総合支所区民課保健福祉係
住所／港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8822

みなとボランティア センターからののお知らせ

「第32回共に生きるみんなの歌と踊りのつどい」を開催します。

詩・ダンス・歌を通じて、障害のある人もない人も一緒になって参加し、楽しむ毎年夏の恒例行事です。ぜひ会場へお越しください。

- 日時** 平成24年7月7日(土)
午後1時30分～4時
- 会場** 麻布区民センター 地下ホール
- 内容** 区内の福祉施設・ボランティア団体などによる歌・ダンス・詩の発表
- 入場料** 無料

お問合せ／
港区社会福祉協議会 みなとボランティアセンター
電話／03-3431-2081

都税事務所からの お知らせ

一都税についてのお知らせ 税務職員を装った不審な電話 「還付金詐欺」にご注意ください!

税務職員を装って、税金などの還付金があるとだまし、ATMから多額の金額を振り込ませようとする「還付金詐欺」が都内でも発生しています。

<手口の流れ>

- (1) 税務職員を装って電話をし、「税金が還付されます」、「払いすぎた税金をお返しします」とだまし、ATMに誘い出す。
- (2) ATMコーナーから指定の電話番号に電話をするように指示する。
- (3) 指定の電話番号に電話すると、ATMの操作を言葉巧みに指示し、資金を振り込ませる。

麻布消防署からの お知らせ

「病院へ行く?」「救急車を呼ぶ?」 迷ったときの便利なツール登場

4月1日から、東京消防庁ホームページ上で救急受診の目安を確認できる「東京版救急受診ガイド」のサービスを開始しました。これは、質問に答えて緊急度などを確認し、救急車を呼ぶか、病院に行くかを自分で判

麻布警察署からの お知らせ

被害にあったら

- 警察庁では、犯罪の被害にあわれた方やご家族の方の、いろいろな悩みや相談に応じるための電話相談を行っています。
- 捜査や裁判はどのように進み、犯人はどのような手続きで処罰されるのか
 - 捜査上、被害者やご家族にどのようなお

麻布の区民参画……語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか 区民の皆さんとの「参画」と「協働」の取組について前号に引き続きご紹介します。

■麻布を語る会「地域情報の発信」分科会

【活動内容】本紙「ザ・AZABU」の編集・企画
今は何をやっているの?
3ヶ月後のvol.21発行に向け、取材等の準備をしています。

■麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会

【活動内容】将来に残し、伝えていくべき今の麻布の写真撮影や古写真の収集
今は何をやっているの?
新メンバーを加え撮影・収集を始めています。
※平成23年度の成果は「活動報告」として支所で配布しています。

■麻布を語る会「麻布地区版基本計画策定」分科会

【活動内容】地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現をめざす「麻布地区版計画」の内容についての検証等
今は何をやっているの?

平成24年度は、新メンバーを加え、地域事業の検証等を行います。
※各分科会とも随時メンバーを募集しています。内容については、お気軽に下記までお尋ねください。
お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812



主税局では、税金を還付するためにATMの操作をお願いすることは絶対にありません。電話でATMの操作を求められたら、それは「還付金詐欺」です。
不審に感じた場合は、相手の氏名、所属する部署名をご確認のうえ、指定された電話番号にはかけずに、最寄りの都税事務所または主税局総務部総務課相談広報係(03-5388-2924)までご連絡ください。また、万が一被害にあわれた場合は、すぐに警察にご連絡ください。

お問合せ／
各都税事務所の相談広報担当
港都税事務所／03-5549-3800
または主税局総務部総務課相談広報係
電話／03-5388-2924

断できるサイトです。
ご利用は、下記のQRコードからも利用できます。パソコンの場合は「東京消防」で検索してください。



お問合せ／麻布消防署警防課
電話／03-3470-0119

願いをすることになるのか
●利用できる制度や、関係機関・団体はどのようなものがあるのか
などについて犯罪被害者ホットラインをご利用ください。

もう一度 あなたの笑顔を見たいから
～相談してみませんか～

お問合せ／警視庁
電話／03-3597-7830
午前8時30分から午後5時15分まで
(土・日・祝日を除く)
FAX／03-3592-6840



「麻布未来写真館」活動報告

編集後記

最近では歴史などの言葉もできるほど、歴史を探索する女性が増えているらしい。その場所がどういう歴史の出来事を見てきたのか想像を巡らすことは確かにロマンチックで楽しいことである。歴史の場所を巡り歩く面白さは、人との出逢いがあることでさらに倍増される。古くから暮らす人々の話に耳を傾け、その地に対する愛情や思いが垣間見えたとき感動を覚える。歴史書を調べてスポットを回るだけでなく、そこに暮らす人々とのふれあいがあれば、町歩きもなお楽しい。
(尾崎恭彦)

AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館サービスセンター、南麻布・本村・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 石山恒子
- Staff 浅川一枝
倉石哲良 福本綾子
大澤佳枝 鈴木敏江 満木葉子
大村公美子 高柳由紀子 森 明
折戸桂子 田中亜紀 山下良蔵
加藤智恵 出石供子
Junior Staff 石山 茜 内野稜山 江原響介
大村 響 鈴木大智 鈴木美紗
福岡央翔

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752
Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp